

スペイン（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在スペイン日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
1	2	2	6	10	251	28	72	1,715	122	301	7,568	140	385	9,536

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

公的機関による日本語教育は、1971年にバルセロナ、1975年にマドリードの両国立語学学校（現・公立語学学校（EOI））で始まった。

高等教育機関においては、1985年にマドリード自治大学語学センターで日本語コースが開始したが、1992年に同哲文学部に東アジア研究センターが設置されて以降は、学部レベルでも日本語・日本文学などの選択科目が履修可能となった。1988年にはバルセロナ自治大学翻訳通訳学校（3年間の学士課程（Diplomatura）を提供）で選択科目として日本語が開講、1992年に翻訳通訳学部（4年間の学士課程（Licenciatura）を提供）に昇格して以降も継続した。また1994年にはバルセロナ自治大学でスペイン初の日本語能力試験が実施されるなど、1980～1990年代は各地の大学の附属語学センターや人文科学系学部の第二外国語科目や自由選択科目として日本語コース設置の動きが活発化し、大学における日本語コースの地位が確立していった。附属語学センターなどでの

一般向け公開講座も含め、現在は約 30 大学で日本語コースが開講されている。

学士課程レベルでは、スペイン政府の承認の下、2003 年にマドリード自治大学、バルセロナ自治大学、サラマンカ大学、カタルーニャ公開大学の 4 大学において日本研究を含む東アジア研究後期学士課程（Ciclo Superior de Licenciatura：2 年間）が誕生した。このうちマドリード自治大学及びバルセロナ自治大学の課程に関しては、ポローニャ・プロセス（1999 年にイタリアのポローニャで採択された『ポローニャ宣言』に基づくヨーロッパの高等教育の改革プロセス）に従い、それぞれ 2009 年にアジア・アフリカ研究学士課程及び東アジア研究学士課程（Grado：4 年間）として改編、サラマンカ大学の課程に関しては 2008 年に修士課程への統合を経つつ 2015 年に学士課程（Grado：4 年間）としても新設、2011 年にはセビリア大学においても東アジア研究学士課程（Grado：4 年間）が設置された。カタルーニャ公開大学の課程に関しては 2012 年に修士課程に統合された（2019 年終了）。

修士課程でも環境が整いつつあり、日本研究を含む領域で 2019 年はサラゴサ大学、2021 年はバリャドリッド大学で始まった。また、2022 年 10 月に国際交流基金の支援のもと、バルセロナ自治大学日本語教育・日本研究事務所（JF さくらネットワーク）が開所。2023 年 2 月からは翻訳通訳学部以外の学生や教職員、現地の一般市民も受講できる体制が整い、その他にも 2023 年はバルセロナ大学やカディス大学、バレンシア大学の語学センターでも日本語コースが開講した。一方、スペイン各地の公立語学学校（EOI）では日本語学習のニーズの高まりを受け、前述のマドリードとバルセロナを含めた全土において、2025 年 9 月時点で 16 校が日本語コースを開講している。また公的機関としては、JF マドリード日本文化センターと提携するカサ・アジアがオンラインの日本語講座を実施している。民間の語学学校なども 100 機関ほどあるほか、個人教授で日本語を学ぶ学習者も少なくない。

日本語教育支援体制としては、2010 年 2 月にスペイン日本語教師会（APJE）が設立され、同年 4 月に JF マドリード日本文化センターが開設、ともに設立から 15 周年を迎えた。教師研修の提供とネットワークの強化に力を入れるほか、近年は継承日本語の活動も積極的に行っており、スペインにおける日本語教育の拡充をさらに進めている。

背景

スペインでは 70 年代中頃以降、30 年以上続いていた独裁政権から民主化への移行に大きなエネルギーが注がれたため、他の欧州諸国と比べ国際化という点で大きく遅れをとり、アジア地域を含む欧州以外の地域に対する関心が低かった。しかし、EU 加盟後の目覚ましい経済発展の後押しを受け、それまで関係が薄かった国・地域に対する関心が高まり、現在では官民をあげて日本やアジア諸国との関係強化に取り組んでいる。2001 年には、政府が掲げた「プラン・アジア」に基づき、スペインとアジア諸国の学術・文化・経済交流促進を目的としたカサ・アジアが設立された。また、2007 年にはマドリード市が、日本との交流強化計画「プラン・ハポン」を掲げ、これに基づきマドリード市の誘致を受けた JF が 2010 年 4 月にマドリード日本文化センターを開設した。

市民レベルでも対日評価・対日関心は非常に良好であり、伝統文化、日本食、武道などに対する関心が高いほか、近年では、日本のアニメ、マンガ、ゲームなどに傾倒する若年層を中心に日本語を学習する人々が増加している。スペイン各地で日本に関するイベントが行われ、毎年秋に、マドリードで開催されるジャパン・ウィークエンド・マドリードとバルセロナで開催されるマンガ・バルセロナには 16 万人以上が参加している。また、日本への旅行者数も増加傾向にあり、日本旅行をきっかけに日本語に関心を持ち、日本語学習を始める学習者も少なくない。

特徴

スペインでは、公立語学学校（EOI）や大学附属語学センターの公開講座、そして民間の語学学校などの学校教育以外の日本語教育機関で学ぶ学習者が約 79 パーセントを占め、高等教育機関における学習者が約 18 パーセントである。初等・中等教育に関しては、2023 年度にカタルーニャ州の中等教育機関 5 校で正式に日本語コースが選択科目として導入されるなど、少しずつ広がりを見せている。他に、機関調査の結果には表れないが、個人教授やアプリで日本語を学ぶ学習者も多い。

最新動向

1. 2024 年 9 月、マドリード・コンプルテンセ大学の哲学部で日本語コースが開講された。
2. 2025 年 9 月現在、カタルーニャ州の中等教育機関で日本語コースを選択科目として導入しているのは 4 校。2023 年度に日本語コースを開始したものの一時休講となっている学校がある一方で、2025 年 9 月に新規で日本語コースを開始した学校もあり、コースの安定化に向けた支援が必要である。
3. 2024 年の機関調査では、2021 年調査に比べ、学習者数は増えたものの、機関数と教師数が微減した。この要因としては、コロナ禍においてオンライン授業の導入により新規に開講された機関の一部が、コロナ後通常の生活に戻ったことで受講者数が減少するなど、運営を縮小したことが背景にあると考えられる。また、学習者が少数であっても日本語の授業を継続している機関が存在する一方、教師や学習者の確保が困難となって開講することのできない機関も少なからず見られた。西欧諸国における学習者数では、スペインはフランス、英国、ドイツに次ぐ規模である。
4. 日本語能力試験は 1994 年にバルセロナ（バルセロナ自治大学）で開始され、その後実施都市が増加した。2019 年は 7 月にバレンシア、12 月にグラン・カナリア島のラス・パルマスでも始まり、西欧随一の合計 7 会場となった。（その後サンティアゴ・デ・コンポステーラ会場が実施を取り止め、2025 年 12 月実施回は 6 会場。）受験者も順調に増加し、2025 年には 2,300 名を超える応募があり、近年は上位レベル（N1、N2）の受験者も増えている。

教育段階別の状況

初等教育

学校教育の正規の外国語科目としては実施されていないが、補習授業校 2 校（マドリード、バルセロナ）と民間の年少者向け日本語教室 1 校で継承語教育の一環として実施されている。その他の日本語教育機関において、夏期休暇などに特別コースとして開講されることもある。個人教授で学ぶ学習者もいる。

中等教育

これまで学校教育の正規の外国語科目としては実施されてこなかったが、2021 年に Instituto de Alexandre Deulofeu 中高等学校（カタルーニャ州フィゲレス市）において、スペインで初めて中等義務教育課程（ESO）の選択科目として日本語教育が試験的に認められ、日本語授業が開講された。継続して同校と同州教育庁へのアドバイジングを行った結果、2023 年秋学期から 5 校で日本語コースの正式導入が決定した。2025 年 9 月時点で同州の 4 校で日本語が教えられている。公立語学学校（EOI）は義務教育で教えない外国語は 14 歳から受講可能、大学附属語学センターなどでも 16 歳から学生を受け入れており、JF マドリード日本文化センターでも中高生向け講座を開講している。個人教授も含めると相当数の学習者が存在する。

高等教育

マドリード自治大学、バルセロナ自治大学、サラマンカ大学、セビリア大学には、日本研究を専攻した場合に日本語を必修科目として学習する東アジア研究学士課程ないしアジア・アフリカ研究学士課程があるほか、日本の法律・社会・文化に特化した日本研究修士課程がサラゴサ大学に、日本研究を含む東アジア研究などの修士課程がマドリード自治大学、バルセロナ自治大学、ポンペウ・ファブラ大学、サラマンカ大学、バリエドリード大学、グラナダ大学などにあり、その他の大学でも選択科目として日本語が設置される場合がある。通信遠隔教育ではカタルーニャ公開大学と国立遠隔教育大学（UNED）に日本語コースがあるほか、マドリード・コンプルテンセ大学など多くの大学の附属語学センターでも一般向け公開講座として日本語コースを設置しており、それぞれ単位を取得することもできる。

東アジア研究学士課程の学生は在学中に日本の提携大学へ留学するケースが多い。また、文部科学省国費留学制度、JF 各種フェローシップ制度（博士課程以上）、JF 関西国際センター専門日本語研修（修士課程以上）などに応募する者も少なくない。

学校教育以外

大学の附属語学センターでは一般向け公開講座として日本語コースを設置している機関も多い。学生以外の受講者も多いため、日本語教育機関調査では「学校教育以外」に分類されているが、現在約 30 大学に設置されている。

スペイン独自の教育制度に基づく公的な言語教育機関である公立語学学校（EOI）では、2025 年 9 月時点で 16 校が日本語コースを開講している。マドリード州では 2023 年秋学期に EOI Alcalá de Henares、EOI Móstoles、EOI San Lorenzo de El Escorial の 3 校で日本語コースが新規開講し、5 校体制となった。公式コースでは CEFR 準拠の教育とレベル認定試験を実施しており公的な資格を得ることができるが、日本語は現在 B2 レベルまでとなっている。他に公的機関ではカサ・アジア（バルセロナ、マドリード）で一般向けの日本語教育が実施されており、JF マドリード日本文化センターとともに JF 日本語教育スタンダード準拠の日本語講座を実施している。そのほか、マドリード、バルセロナなどの大都市を中心に、民間の語学教育機関（いわゆる語学学校）の日本語コースも多い。また、スペインの特徴として、年少者も含めて個人教授で日本語を学ぶ人が少なくない。また、正確な数は把握できていないものの、無料アプリなどを利用する学習者も多く、日本語学習のきっかけの一端となっている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-4-2 制。

幼児教育が幼稚園（0～3 歳）と幼児学校（3～6 歳）の 6 年間、義務教育は、小学校 6 年間（7～12 歳）、前期中等教育（ESO）4 年間（13～16 歳）までの 10 年間。その後、後期中等教育（バチジェラート）2 年間（17～18 歳）。高等教育は大学（4～6 年。専攻によって異なる）や、職業教育を中心とする専門学校がある。

教育行政

教育法に定められた基本的枠組みの中で、国内全 17 自治州に対して教育制度に関する自治が認められており、

各自治州によってカリキュラムの内容などは異なる（例えば、カタルーニャやバスクなど、スペイン語以外の公用語を併せ持つ自治州では、州公用語の授業の義務化など）。

言語事情

憲法によってスペイン語（カスティーリャ語）がスペイン全土の公用語として定められているが、自治州によってはその州の言語も公用語として併用されている（ガリシア州、バスク州、カタルーニャ州、バレンシア州など）。

外国語教育

小学校 1 年生より外国語が必修（ほとんどの場合英語）。中学校 1 年生より第二外国語が選択科目となる。自治州によって異なるが、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語などが選択可能。また、語学学習に特化した公立語学学校（EOI）が 300 以上設置されており、そこでもスペイン国内の地方語や欧州言語のほかにアジア言語などさまざまな言語が教えられている。

外国語の中での日本語の人気

相対的な学習者は、英語や主要欧州言語よりも少ないが、他のアジア言語と比較すると、日本語の人気は非常に高い。特に、日本のアニメやマンガ、ゲームやドラマなどの人気が高まっていることもあり、ポップカルチャーへの関心がきっかけで日本語学習を始める例が多く見られ、個人教授や独学で学んでいるケースも多い。授業料の安い公立語学学校（EOI）では、日本語は定員を大幅に超える受講希望者が集まる学校もあるほか、東アジア専攻課程においても中国語、韓国語、アラビア語など他の言語と比べて日本語コースの人気は高い。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

補習授業校などの継承語教育では、日本の学校教育の教材や日本の子ども向けの教材を使用している。個人教授や単発の日本語講座では『おひさま [はじめのいっぽ] 子どものための日本語』（くろしお出版）、『まるごと日本のことばと文化 入門（A1）』国際交流基金（三修社）などが使われることもある。

中等教育

補習授業校などの継承語教育では、日本の学校教育の教材や日本の子ども向けの教材を使用している。個人教授や単発の日本語講座では『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク）、『まるごと 日本のことばと文化 入門（A1）』国際交流基金（三修社）などが使われている。また、『エリンが挑戦！日本語できます。コンテンツライブラリー』（国際交流基金）もよく使われている。

高等教育

多くの機関では主教材として『みんなの日本語Ⅰ、Ⅱ』本冊、翻訳・文法解説書スペイン語版（スリーエーネットワーク）が使用されているほか、スペイン発行教材『Nihongo. Gramatica de la lengua japonesa. Japones para hispanohablantes』（Herder, S.A.）などが使用されている。中級レベルでは『まるごと 日本のことばと文化 中級（B1）1・2』国際交流基金（三修社）を使うところも多く、その他の日本で市販されている教材も使われている。

学校教育以外

『みんなの日本語Ⅰ、Ⅱ』本冊、翻訳・文法解説書スペイン語版（前出）や関連副教材のほか、最近は『まるごと 日本のことばと文化』シリーズ（三修社）もよく使われている。『Nihongo. Gramatica de la lengua japonesa. Japones para hispanohablantes』（Herder, S.A.）、『Japanese for Busy People』スペイン語版（AJALT）、など入門、初級レベルではスペイン語解説つきの教材も多く使用されているが、『初級日本語げんき』坂野永理ほか（The Japan Times）、『できる日本語』できる日本語開発プロジェクト（アルク）、『文化初級日本語』文化外国語専門学校日本語科（文化外国語専門学校）を使用している学校もある。そのほか、参考書としては、独学者向けにスペイン人著者が執筆した、マンガを利用した教材『Japones en vinetas. Curso basico de japones a traves del manga マンガで日本語』（Norma）のシリーズが初心者の絶大な支持を得ている。スペイン人学習者向けの文法参考書では『Manual de Japones Basico スペイン語圏 日本語基礎文法』（Pearson Education Japan）、『Manual de lengua japonesa（Segunda Edicion）』（マドリード自治大学）などもよく利用されている。

文字教材としては、『Basic Kanji Book』加納千恵子ほか（凡人社）、『ストーリーで覚える漢字 300』ボイクマン総子ほか（くろしお出版）、『漢字たまご』有山優樹ほか（凡人社）、『GENKI Plus KANJI LOOK AND LEARN』坂野永理ほか（The Japan Times）の他、上述と同じ著者によるマンガを利用した『Kanji en vinetas. Curso basico de kanji a traves del manga マンガで日本語』（前出）も使われている。JFの「ひらがな Memory Hint」「カタカナ Memory Hint」「漢字 Memory Hint」も教師を通して紹介されている。

IT・視聴覚機材

高等教育機関や公立語学学校（EOI）、JFなどの公的機関、大手民間語学学校などにおいては教室にPCやプロジェクター、TVモニター、DVDプレーヤー、音響などの設備が整っている場合もあり、授業でマルチメディア教材、パワーポイントやDVD、インターネットなどを活用している教師も多い。JFが開発した「エリンが挑戦！にほんごできます。」のDVDやWeb版、「アニメ・マンガの日本語」Webサイト、「まるごと+（プラス）入門（A1）」などもスペイン語版があるため、よく利用されている。また、スペイン語がないもの（「ひらがな Memory Hint」「カタカナ Memory Hint」「漢字 Memory Hint」）も英語版が使われている。そのほか教師の間では「まるごと+」や「ひろがる」を授業で使っているという声も聞く。

スペインでは通信制大学2校で日本語が開講されており、講座登録者向けのEラーニングが活用されている。まず、カタルーニャ公開大学は対面授業なしの完全通信制大学であり、同語学スクールで開講されている日本語コースもオンラインでの受講となっている。教材は日本語講師とシステム開発者が協力して開発しており、印刷用教材とEラーニング教材がある。イラスト、音声、動画などを活用した教材で、学習者が自由にアクセスし、練習問題などに取り組むことができ、教室のフォーラムや担当講師に質問のメールを送ることもできる。また、学習者が動画、音声、テキストを送ることができる教室内ブログも活用されている。また2010年に新規で日本

語コースが開講された国立遠隔教育大学（UNED）では、『まるごと 日本のことばと文化』が主教材とされており、JFの「まるごと日本語オンラインコース」も併用されている。補助教材として文法や漢字の練習問題が提供されている。試験以外は基本的にオンライン受講であり、掲示されたペースに従って同サイトで学ぶことになっているが、スクーリングコースを選んだ場合は、スペインの2地域では、週1回の対面授業も実施されている。

JFの「JFにほんごeラーニング みなど」にはスペイン語で開講されているコースがあり、2025年11月末時点でスペインでの登録者数は欧州域内1位（全世界11位）である。JFマドリッド日本文化センターでも独自の自習コースやまるごと教師サポート付きコースを開講している。

5. 教師

資格要件

初等教育

学校教育の正規の外国語科目としては実施されていないため、特に資格要件はない。

中等教育

日本語教師としての資格は明確ではないが、カタルーニャ州の事例では、同州教育庁のデータベースで日本語能力を有する教師が在籍する学校が対象となり、対象教員の希望を基に学校側の判断により認められる。

高等教育

日本語教師としての資格は明確ではないが、学士号以上の学歴を有し（日本で取得した学位の場合、大学によっては、スペインでの学位認定手続きが必要）、スペインにおける日本語教育の経験を有していることが一応の基準となっている模様。なお、各大学独自の選考によって採用が決定されているが、語学センターなどの場合、時間給による有期雇用契約が多い。また、東アジア研究学士課程の常勤教員の場合、契約更新条件として博士号の取得が課されるなど、大学の常勤教員となるためには相当の日本語教育経験と学位が必要となってきている。

学校教育以外

公立語学学校（EOI）の教師となる場合は、各州によって多少異なるが、スペイン人においては教育学修士号を有し、同校が実施する認定試験の最上級レベル（B2）か日本語能力試験N1に合格していることなどが条件となっており、書類審査、採用試験を経て決定される。また、スペイン人以外の採用条件には当該州の公用語の資格（C1）が必要となっている。なお、公立語学学校（EOI）の待遇などは公務員に準じており、多くはスペイン人であるが、最近は日本語ネイティブ教師も増えている。

民間の語学学校の場合は、特に定まった資格要件はないが、スペインにおける日本語教育経験などが考慮されることが多く、一定のスペイン語能力と地域によっては地域語の能力も必須であり、また労働居住許可などの在留資格を有していることが条件となる。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

日本語のネイティブ教師（日本語教師）の雇用状況とその役割

日本語教師の約70%は日本語ネイティブ教師である。スペイン人教師は高等教育において日本の政治・経済・文化・社会などの専門科目を教える傍らで日本語科目も担当するなど、重点は専門科目にあるようである。東アジア研究学士課程などにおいては、主にスペイン人教師がコーディネート業務を務め、課程全体の方針に従って全体カリキュラムを組んだ上で、科目担当者がそれぞれ授業を計画・実施している。大学附属語学センターや第二外国語や選択科目で教えている大学においては、日本語ネイティブ教師1～数名で日本語コースを担当している場合がほとんどである。

一方、公立語学学校（EOI）では日本語ネイティブ教師がいない学校もある。自治州ごとに定められた目標、時間、シラバスなどの要領に沿って、主にスペイン人教師がコーディネートし、授業を実施している。民間の語学学校においては、日本語ネイティブ教師のほうが圧倒的に多い。初級段階が中心であるため、特に科目によるネイティブ教師と現地教師の役割分担などはほとんど行われていない。

教師研修

スペインではさまざまな形で教師研修、セミナーが開催されている。スペイン日本語教師会（APJE）による春と秋のセミナーや週一回のオンライン勉強会のほか、同教師会とJFマドリッド日本文化センターとの共催による総会・研修会（毎年）やシンポジウム（隔年）が実施されている。また、JFマドリッド日本文化センター主催の地方巡回日本語教育セミナーがスペイン各地において実施されている。加えて、2017年度からは新たな試みとしてオンライン研修が実施され、地理的な制約のない研修形態が好評を得ており、スペインのみならず、隣国のポルトガルやその他欧州各国、日本からの参加も多い。

海外研修としては、JF日本語国際センターの日本語教師訪日研修や欧州各地で行われている教師研修に参加する場合もある。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

以前、バルセロナにはカタルーニャ州の教師が中心となった日本語教師会が存在していたが、スペイン全土を網羅するネットワークは存在しなかった。2000年から毎年1月に大使館で行われていた日本語教師連絡会を母体として徐々に教師会設立機運が高まり、2010年2月に設立総会が行われ、スペイン日本語教師会（APJE）が正式に発足した。2010年は設立総会とともに研修会を実施したほか、3月に勉強会、6月に第1回スペイン日本語教師会シンポジウム、10月にワークショップを開催し、論集を発行するなど活発に活動している。2013年9月には第17回ヨーロッパ日本語教師会（AJE）シンポジウムをマドリッドで開催した。また、2014年からは隔年で日本語学習者の交流イベントを開催している。2025年4月現在の会員数は153名。活動内容は、教師会総会・研修会（2月）、シンポジウムまたは日本語学習者交流イベント（6月）、研修会・ワークショップ（年2回）をJFマドリッド日本文化センターとの共催または助成で実施しているほか、教師会ホームページでの情報提供、メールによる会員向け情報発信、論集の発行（PDF版）、オンライン勉強会（毎週）や教材開発プロジェクトなどの活動を行っている。

[教師会・学会一覧へ](#)

最新動向

- 2023年にスペイン日本語教師会（APJE）の有志による「スペイン継承日本語グループ」の活動が始まった。2023年及び2025年に、同グループはスペインにおける日本語継承の実態調査アンケートを2回にわたり実施、2024年からはJFマドリッド日本文化センターと共催で『「子どもの日本語」に関する座談会』を開催している。今後も定期的なオンライン座談会と実態調査を実施予定である。
- 2025年6月、スペイン日本語教師会（APJE）とJFマドリッド日本文化センター共催で、第8回スペイン日本語教師会シンポジウム「見えない文化を考える―円滑なコミュニケーションに向けて」をマドリッド自治大学において開催した。次回のシンポジウムは2027年に開催予定である。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

日本語専門家

JFマドリッド日本文化センター 1名

日本語指導助手

JFマドリッド日本文化センター 1名

その他からの派遣

なし

8.シラバス・ガイドライン

初等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

中等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

高等教育

東アジア研究学士課程においてはボローニャ・プロセスに従ったETS（単位）制度を取り入れており、課程全体の単位数は240単位で、各学年60単位。その内訳は大学によってやや異なるが、教養60、必須84-120、選択90-54、実習6単位であり、うち言語科目の単位は40%となっている。また、CEFRに基づいた全課程終了時の目標レベル設定はB1-B2である。選択科目などで日本語を開講している場合、また、語学センターでも単位が認められる場合は、単位取得に必要な時間数のほかには、特に決められたシラバスやガイドラインはない。

学校教育以外

公立語学学校（EOI）では CEFR に準拠した教育が行われ、全言語に共通したカリキュラムが国レベル、州レベルで制定されている。CEFR 導入前は基礎・中級・上級の 3 レベルだったが、2006 年に CEFR が導入されて基礎が A2、中級が B1、上級が B2 となり、その上に C1、C2 が追加された。2017 年にカリキュラムの改訂があり、CEFR と同様に B1 と B2 が中級、C1 と C2 が上級へと今後移行される。日本語は現在のところ B2 までしか開講されておらず、各州のカリキュラムに基づいて各校の教師がコースデザインを行っている。

[シラバス・ガイドライン一覧へ](#)

9. 評価・試験

公立語学学校（EOI）では CEFR に準拠した教育が行われ、各州で公的なレベル認定試験を実施している。この試験はコースを履修していなくても受験することが可能で、公的な資格と認定されている。中等教育では正式に日本語が教えられていないため、大学入試では受験科目として日本語は採用されていない。JF の日本語能力試験（JLPT）は、スペイン国内では「NOKEN」の略称で広く認知されており、受験者も多い。

評価・試験の種類

公立語学学校（EOI）のレベル認定試験は各州が実施しているため統一試験ではないが、認定された資格は国内で通用する。日本語能力試験は統一試験的性格を持っているが、CEFR に準拠していないため、職業上の資格や大学などでの単位や修了の要件にはなっていない。

10. 日本語教育略史

1971 年	バルセロナ国立語学学校にて日本語コース開講
1975 年	マドリード国立語学学校にて日本語コース開講
1985 年	マドリード自治大学語学センターにて日本語コース開始
1988 年	バルセロナ自治大学の翻訳通訳学校（1992 年翻訳通訳学部へ昇格）にて日本語コース開始
1992 年	マラガ公立語学学校（EOI）にて日本語コース開講 マドリード自治大学哲文学部に東アジア研究センター開設、日本語・日本文学等に関する科目が開講
1994 年	バルセロナ自治大学にて日本語能力試験を初実施
1980 年代末 ～1990 年代	各地の大学の語学センター、翻訳・通訳学部、文学部等で日本語講座設置が活発化
2003 年	スペイン政府の承認を受け、マドリード自治大学、バルセロナ自治大学、

	<p>サラマンカ大学、カタルーニャ公開大学に東アジア研究後期学士課程（2年間）が新設</p> <p>カサ・アジア・バルセロナにおいて日本語講座開講</p>
2006年	<p>マドリード自治大学にて日本語能力試験を実施</p> <p>公立語学学校（EOI）のカリキュラムにCEFR導入</p>
2007年	<p>ガリシア州（ビーゴ、ア・コルーニャ）の公立語学学校（EOI）にて日本語コース開講</p>
2008年	<p>サラマンカ大学の東アジア研究学士課程が修士課程に改編</p> <p>カサ・アジア・マドリードにおいて日本語コース開講</p>
2009年	<p>マドリード自治大学、バルセロナ自治大学にて東アジア研究学士課程（4年間）が設置</p>
2010年	<p>スペイン日本語教師会（APJE）が発足</p> <p>JF マドリード日本文化センター開設</p> <p>第1回スペイン日本語教師会シンポジウムをマドリードで開催</p> <p>国立遠隔教育大学（UNED）にて日本語講座開講</p>
2011年	<p>JF マドリード日本文化センター内で直営日本語講座開講</p> <p>カサ・アジア・マドリードで同基金との連携日本語講座開講</p>
2012年	<p>第2回スペイン日本語教師会シンポジウムをバルセロナで開催</p> <p>サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学において日本語能力試験を実施（国内3会場に）</p>
2013年	<p>マドリードで第17回ヨーロッパ日本語教師会（AJE）シンポジウム開催</p>
2014年	<p>グラナダ大学において7月に日本語能力試験を実施</p> <p>カサ・アジア・バルセロナでJF マドリード日本文化センターとの連携日本語講座開講</p> <p>第1回日本語劇コンクールを開催（以後、2020年まで隔年で開催）</p>
2015年	<p>第3回スペイン日本語教師会シンポジウムをサンティアゴ・デ・コンポステーラで開催</p> <p>スペイン日本語教師会（APJE）、バルセロナ自治大学（UAB）がJFのさくらネットワークメンバー*に加入</p> <p>サラマンカ大学にて東京外国語大学グローバルオフィスが開所</p> <p>また、文献学部内に東アジア研究課程日本語コースが、翻訳学部内にも日本語コースが開講される</p>

2016年	マドリード・コンプルテンセ大学にて7月に日本語能力試験を実施 バレンシアの公立語学学校（EOI）にて日本語コース開講
2017年	第4回スペイン日本語教師会シンポジウムをサラマンカで開催 バレンシアのサント・トマス・デ・ビジャヌエバ校（Colegio Santo Tomás de Villanueva）にて日本語の課外コースが開始 公立語学学校（EOI）カリキュラム改定
2018年	バレンシア州（アリカンテ、エルチェ）の公立語学学校（EOI）にて日本語コース開講
2019年	公立語学学校（EOI）カリキュラムの追補版公開 第5回スペイン日本語教師会シンポジウムをアリカンテで開催 バレンシアのサント・トマス・デ・ビジャヌエバ校で7月に日本語能力試験を実施 ラス・パルマスのラス・パルマス・デ・グラン・カナリア大学で12月に日本語能力試験を実施（国内7会場に）
2021年	カタルーニャ州の Instituto de Alexandre Deulofeu 中高等学校で、スペインで初めてとなる中等義務教育課程（ESO）の選択科目として日本語教育が試験的に開始 マドリード自治大学が JF のさくらネットワークメンバー*に加入 第6回スペイン日本語教師会シンポジウムをオンラインで開催
2022年	マドリード州の公立語学学校（EOI Barajas y Ciudad Lineal）にて日本語コース開講 バルセロナ自治大学で新たに日本語教育・日本研究事務所（JF さくらネットワーク）が開設
2023年	第7回スペイン日本語教師会シンポジウムをクエンカで開催 カタルーニャ州の中等教育機関5校で日本語コースが正式に開講 マドリード州の公立語学学校3校（EOI Alcalá de Henares、EOI Móstoles、EOI San Lorenzo de El Escorial）で日本語コース開講
2024年	マドリード・コンプルテンセ大学の哲学部で日本語コース開講
2025年	第8回スペイン日本語教師会シンポジウムをマドリードで開催

*さくらネットワークメンバー：JF が、世界各地での日本語教育の充実・発展・質の向上を目標に構築を進める「[JF にほんごネットワーク](#)」（通称「さくらネットワーク」）を構成する連携機関。各国・地域の中核的日本語教育機関がさくらネットワークメンバーとして認定を受けている。

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)